

病院の取り組み

～ 入浴時の洗身方法の改善 ～

業務改善委員会

当院では、柔らかい材質の手袋と泡状にしたボディーソープを使って洗身しています。

改善のきっかけ

高齢者の場合、皮膚掻痒症の方が多く、夜も眠れないくらいの痒みに悩まされている患者さんもいらっしゃいました。

薬のみに頼るのではなく、その痒みを少しでも軽減する方法はないかと、今年の夏、業務の見直しをしていました。

同じ頃、看護及び介護職員を対象とした勉強会で、「皮膚の生理とスキンケア」について学びました。そこで、痒みの原因の1つとなる洗身方法の問題点が明らかになりました。



業務改善委員会の紹介

病棟での様々な業務を「安全性」「効率性」「経済性」の視点から見直し、改善することで、患者さんへのケアの充実とサービス向上を目指して活動しています。

洗身方法の改善

改善前

- ・皮膚トラブルのある患者さんにだけ、特別なボディーソープを使用
- ・スポンジにボディーソープを浸透させて洗身



改善後

- ・患者さん全員、同じ方法で洗身する。
- ・ボディーソープを希釈し、特殊なポンプを使い細かい泡状にする。
- ・スポンジより柔らかい素材で作られた洗身用手袋を使用する。

洗身方法の問題点

スポンジで体をゴシゴシこすりながら洗う

摩擦によって皮膚のバリア機能を崩す

正常な生理機能を維持できなくなる

痒みが生じている可能性が高い！！

改善した洗身方法の特徴

- ・手袋をはめた手のひらに、泡状にしたボディーソープを沢山のせる。
- ・ゴシゴシこするように洗うのではなく、円を描くよう泡を使ってソフトに洗う。
- ・皮膚トラブルのある患者さんの場合は、身体の上に泡状ボディーソープをのせ、泡で包み込むように洗い、その後シャワーで流す。
- ・職員研修を行い、職員全員が同じ方法を身につけました。



洗身用手袋



泡状ソープ

結果

洗身方法を変更し1年が経過していますが、改善前まで特別なボディーソープを使用していた患者さんに皮膚トラブルの悪化は生じていません。また、洗身方法の変更による効果であるかどうかは定かではありませんが、一部の患者さんから痒みが楽になったとの声が聞かれています。

その他、洗身用手袋は、拘縮の強い部分(脇、手のひら、鼠径部等)が簡単にきれいに洗える利点もあります。

皮膚トラブルのある患者さんの場合は、洗身方法だけで解決できない問題もあるため、個々の看護・介護計画に従い、軟膏などを用いながら対応しています。

当院のお風呂

入院患者さんは、2階病棟の機械浴室と3階病棟の一般浴室をご利用されます。

2階のお風呂は、主に座位を保つことのできない方々に、安心して入浴していただくことができます。

3階のお風呂は、歩いて入られる方が転ばないように手すりが備え付けてあり、歩くことができなくても座位が保てる方については、専用の椅子に座ったまま入浴していただける機械があります。



機械浴室



一般浴室

第5回ふくの若葉病院ミニコンサート

6月29日(日)1階エントランスホールにてミニコンサートを開催しました。

今回は、医師(札幌麻生脳神経外科病院の神経内科医長)にして、プロのピアニストでもある、上杉春雄さんのピアノ演奏会でした。

プログラムはバッハの「プレリュード」、クーペランの「恋のナイチンゲール」、リストの「鐘」などのクラシック曲、「おもちゃ」などの日本民謡と、多彩なものでした。入院患者さんは、「綺麗な音色やね」、「心に響き渡る演奏やったよ」など嬉しそうな表情で話しておられました。



演奏家プロフィール(一部紹介)
1967年北海道生まれ。11歳でSTV青少年音楽コンクール最優秀賞を受賞。以後、国内外のコンクールで多数入賞されています。
医学部在学中の21歳のときに初レコーディング、サントリーホールでのデビューリサイタル。
大学卒業後は医師の仕事一本に専念。一昨年、4枚目のCDをリリースし、再デビューリサイタルを開き音楽活動を再開。

七夕まつり

7月9日(水)2階と3階食堂ホールにて七夕まつりを開催しました。当日は、ボランティアの『石楠花舞妙(しゃくなげぶたえ)』と『城華(じょうか)』の2団体が、慰問に訪れてくださいました。

『石楠花舞妙』の皆さんは、メロディや太鼓のリズムにあわせ、スピーディーで躍動感のある舞などを披露してくださいました。

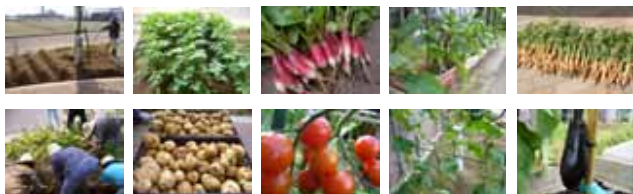


『城華』の皆さんは、城端を拠点として活動されていて、城端むぎや踊りのメロディを基にしたリズムカルな舞などを披露してくださいました。



通所リハビリテーション菜園活動

通所リハビリテーションの職員が、春から土を耕し、ベビーキャロット、二十日大根、ジャガイモ、茄子、胡瓜の種や苗を植え栽培しました。職員が毎日世話をした菜園で、利用者さんとの収穫を楽しみました。



収穫後は、厨房職員の方に調理していただき、昼食やおやつとして美味しく頂きました。

第16回療養病床協会全国研究会

7月3日(木)、8日(金)福岡県福岡市のJALリゾートシーホークホテル福岡において、第16回療養病床協会全国研究会(福岡大会)が開催されました。当院は、「経口摂取能力の維持、向上へ～摂食・嚥下障害患者に対する訓練パスの作成～」、「終末期ケアへの取り組み～患者と家族の思いの比較～」と題し、2題の事例を発表しました。



発表者一同、参加者の皆さんに、当院の取り組みについて、少しでも理解していただけるよう本番に挑みました。また、日頃の業務や知識の向上に繋がるよう、シンポジウムや他の発表者による発表演題を聴講しました。

14歳の挑戦!!

福野中学校の2年生3名が、7月7日(月)から、5日間、当院にて「14歳の挑戦」に取り組みました。看護や介護の仕事について説明を受け、入院患者さんや通所リハビリテーションの利用者さんの移動、食事の手助けなどをし、レクリエーションに参加しました。



生徒さんたちからは、「最初はどう触れ合ったらいいのかわかりませんでした。徐々に慣れて楽しく会話ができるようになったことが、印象に残っています。」「オヤツ介助の後に、口を綺麗に拭いてあげたら、すごく喜んでもらえたので、とてもよかった。」などの感想がありました。

夏休みを利用して

7月30日(日)1階エントランスホールにて大江先生の音楽の集いが開催されました。その際、学校夏休み中の、院長のお孫さん二人も参加して、楓ちゃんがソナチネを、理央くんがプレリュード・ホ短調と、1曲ずつピアノ演奏してくれました。



8月7日(木)職員の姪御さんが職場見学に訪れました。通所リハビリテーションにおいて、看護、介護及びリハビリ職員の仕事を見学し、利用者さんとふれ合いました。中学3年生の彼女は、どのような高校に進学するか悩んでいるそうで、今回の職場見学が少しでも参考になれば嬉しいです。



編集後記

当院の広報誌は創刊してから第8号を迎えました。今回は、当院の洗身方法について紹介しました。少し前、洗顔商品のテレビコマーシャルで、『泡の力を信じなさい』と言っていたのを思い出しました。今後も、患者さんのことを考えた業務内容の改善にむけ、職員一同頑張ります。

